

教員養成セミナー9月号
トレーニング動画

12カ月完成
教職・一般教養
受講ノート

◆第12回◆教育時事②

教育の情報化・GIGAスクール構想

講師：本田 辰雄

テーマ1

教育の情報化・GIGAスクール構想

テーマ1

1. 教育の情報化の推進に関する法律

● 第1条 目的

この法律は、（1 **高度情報通信ネットワーク社会**）の発展に伴い、学校における情報通信技術の活用により学校教育が直面する課題の解決及び学校教育の一層の充実を図ることが重要となっていることに鑑み、全ての児童生徒がその状況に応じて効果的に教育を受けることができる環境の整備を図るため、学校教育の情報化の推進に関し、基本理念を定め、国、地方公共団体等の責務を明らかにし、及び学校教育の情報化の推進に関する計画の策定その他の必要な事項を定めることにより、学校教育の情報化の推進に関する施策を（2 **総合的かつ計画的**）に推進し、もって次代の社会を担う児童生徒の育成に資することを目的とする。

テーマ1

1. 教育の情報化の推進に関する法律

- ➡ ・一部の児童生徒ではなく、「全ての児童生徒がその状況に応じて効果的に教育を受けることができる環境」の整備が目的である。
 - ・基本理念，国・地方公共団体等の責務，学校教育の情報化の推進に関する計画の策定等を定めることが示された。

テーマ1

1. 教育の情報化の推進に関する法律

第2条 定義（学校教育の情報化）

この法律において「学校教育の情報化」とは、学校の各教科等の指導等における情報通信技術の活用及び学校における（**情報教育**）（**情報及び情報手段**（中略）を主体的に選択し、及びこれを活用する能力の育成を図るための教育をいう。中略）の充実並びに学校事務（中略）における**情報通信技術**の活用をいう。

テーマ1

1. 教育の情報化の推進に関する法律

第2条 定義（デジタル教材）

この法律において「**デジタル教材**」とは、**電磁的記録**（中略）として作成される教材をいう。

この法律において「**デジタル教科書**」とは、教科書に代えて、又は教科書として使用される**デジタル教材**をいう。

テーマ1

1. 教育の情報化の推進に関する法律

第3条 基本理念

学校教育の情報化の推進は、情報通信技術の特性を生かして、個々の児童生徒の能力、特性等に応じた教育、（4 双方向性）のある教育（児童生徒の（5 主体的な学習）を促す教育をいう。）等が学校の教員による適切な指導を通じて行われることにより、各教科等の指導等において、情報及び情報手段を主体的に選択し、及びこれを活用する能力の体系的な育成その他の知識及び技能の習得等（心身の発達に応じて、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うことをいう。）が効果的に図られるよう行われなければならない。

テーマ1

1. 教育の情報化の推進に関する法律

第3条にある6つの基本理念

- ① 情報通信技術の特性を生かして、**児童生徒の能力、特性等**に応じた教育、（4 **双方向性**）のある教育等を実施する
- ② （6 **デジタル教材**）による学習とその他の学習を組み合わせるなど、多様な方法による学習を推進する
- ③ **全ての児童生徒**が、家庭の経済的な状況、地域、障害の有無等にかかわらず、学校教育の情報化の恵沢を享受できるようにする
- ④ 情報通信技術を活用した**学校事務の効率化**により、**学校の教職員の業務負担を軽減し、教育の充実が図られるようにする**
- ⑤ 児童生徒等の（7 **個人情報**）の適正な取扱い及び（8 **サイバーセキュリティ**）の確保を図る
- ⑥ 児童生徒による情報通信技術の利用が、児童生徒の（9 **健康、生活等に及ぼす影響**）に十分配慮する

テーマ1

1. 教育の情報化の推進に関する法律

第4条 定義（国の責務）

国は、前条の基本理念（中略）にのっとり、学校教育の情報化の推進に関する施策を総合的かつ計画的に策定し、及び実施する責務を有する。

教育の情報化について

「教育の情報化」とは、情報通信技術の、（1 **時間的・空間的制約**）を超える、**双方向性**を有する、**カスタマイズ**を容易にするといった特長を生かして、**教育の質の向上**を目指すものであり、具体的には次の3つの側面から構成され、これらを通して教育の質の向上を図るものである。

- ①**情報教育**：子供たちの（2 **情報活用能力**）の育成
- ②**教科指導における**（3 **ICT**）活用：（3 **ICT**）を効果的に活用した分かりやすく深まる授業の実現等
- ③**校務の情報化**：教職員が（3 **ICT**）を活用した情報共有によりきめ細やかな指導を行うことや、**校務の負担軽減**等

テーマ1

2. 教育の情報化に関する手引

教育の情報化について

あわせて、これらの教育の情報化の実現を支える基盤として、

- ・ **教師の（3 ICT）活用指導力等の向上**
- ・ **学校の（3 ICT）環境の整備**
- ・ **教育情報セキュリティの確保**

の3点を実現することが極めて重要である。

テーマ1

2. 教育の情報化に関する手引

一人一人の教育的ニーズと必要な支援

コンピュータや情報通信ネットワークなどの（3 ICT）は、**特別な支援を必要とする児童生徒**に対して、その**障害の状態や特性及び心身の発達の段階**等に応じて活用することにより、**学習上又は生活上の困難**を（4 改善・克服）させ、**指導の効果**を高めることができる重要な手段である。

このような情報化に対応した特別支援教育を考えるに当たっては、個々の児童生徒が、学習を進める上でどのような困難があり、どのような支援を行えばその困難を軽減できるか、という視点から考えることが大切である。

テーマ1

2. 教育の情報化に関する手引

情報教育の目標の3観点

A 情報活用の実践力

課題や目的に応じて（5 **情報手段**）を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に**収集・判断・表現・処理・創造**し、（6 **受け手の状況**）などを踏まえて**発信・伝達**できる能力

情報教育の目標の3観点

B 情報の科学的な理解

情報活用の基礎となる（5 **情報手段**）の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を**評価・改善**するための基礎的な理論や方法の理解

C 情報社会に参画する態度

社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、**情報モラル**の必要性や情報に対する責任について考え、（7 **望ましい情報社会**）の創造に参画しようとする態度

情報モラル教育の基本的な考え方

携帯電話・スマートフォンやソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）が子供たちにも急速に普及する中で、児童生徒が**自他の権利を尊重**し情報社会での（8 **行動に責任を持つ**）とともに、犯罪被害を含む（9 **危機を回避**）し、情報を正しく安全に利用できるようにするため、学校における情報モラル教育は極めて重要である。

テーマ1

2. 教育の情報化に関する手引

発達段階に応じた体系的な情報モラル教育の推進

情報モラル教育を行うに当たっては、教師が、（10 インターネットの世界）で起きていることを把握した上で、児童生徒が将来、インターネット上の（11 トラブルに巻き込まれない）ように、指導することの重要性を認識する必要がある。

また、インターネット上のコミュニケーションも日常生活と同様に、（12 向こう側に人がいること）を意識させることが重要であり、顔が見えない分、日常生活以上に勘違いが起こる可能性は高く、注意すべき点があることについて指導する必要がある。

テーマ1

2. 教育の情報化に関する手引

発達段階に応じた体系的な情報モラル教育の推進

インターネットを取り巻く状況は日々変化しており、児童生徒が遭遇するトラブルは、現在、インターネット上で起こっているものだけにとどまらず、将来、情報技術の進展とともに多種多様なトラブルが起こる可能性がある。

そのような中、トラブルに直面しても児童生徒が心身に大きな傷を受けることなく対応できるとともに、自らトラブルを予測し、迫りくる危険を回避できるように指導することも重要である。

テーマ1

3. GIGA スクール構想の実現へ

日本の現状

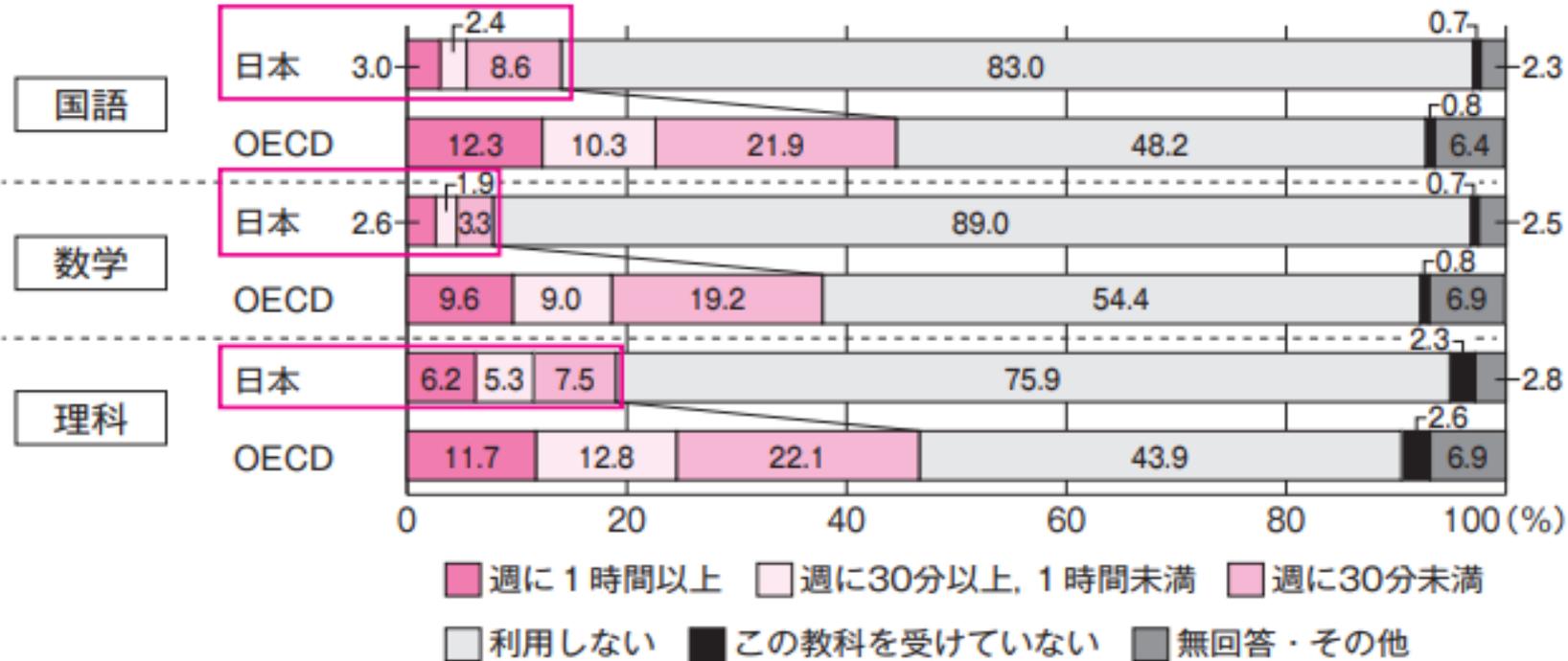
学校の ICT 環境整備状況は（1 **脆弱**）であるとともに、地域間での整備状況の（2 **格差が大きい**）危機的状況である。

学校の授業におけるデジタル機器の使用時間は OECD 加盟国で（3 **最下位**）である。

テーマ1

3. GIGA スクール構想の実現へ

● 1週間のうち、教室の授業でデジタル機器を利用する時間



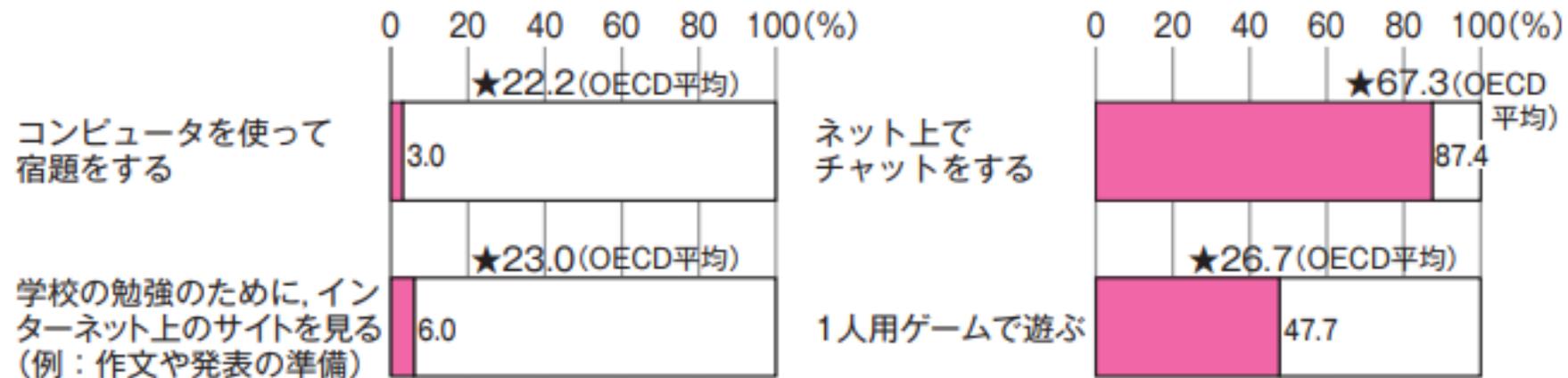
(出典：OECD生徒の学習到達度調査 (PISA2018)「ICT活用調査」)

テーマ1

3. GIGA スクール構想の実現へ

- ・ **学校外での ICT 利用**は、学習面では OECD 平均（4 以下）、学習外では OECD 平均（5 以上）

●学校外での平日のデジタル機器の利用状況
(色帯は日本の、★は OECD 平均の「毎日」「ほぼ毎日」の合計)



(出典：OECD生徒の学習到達度調査 (PISA2018)「ICT活用調査」)

テーマ1

3. GIGA スクール構想の実現へ

GIGA スクール構想

- ・ **1人1台端末**と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、（**6 特別な支援を必要とする子供**）を含め、多様な子供たちを（**7 誰一人取り残すこと**）なく、公正に（**8 個別最適化**）され、（**9 資質・能力**）が一層確実に育成できる教育 ICT 環境を実現する
- ・ これまでの我が国の教育実践と最先端の ICT のベストミックスを図ることにより、（**10 教師・児童生徒**）の力を最大限に引き出す

テーマ1

3. GIGA スクール構想の実現へ

1人1台端末の環境が何をもたらすか
学びの深化によりできること

【一斉学習】

- ・教師は授業中でも一人一人の反応を把握できる
 ➡子供たち一人一人の反応を踏まえた、**双方向型**の一斉授業が可能になる

テーマ1

3. GIGA スクール構想の実現へ

1人1台端末の環境が何をもたらすか
学びの転換によりできること

【個別学習】

- ・各人が同時に別々の内容を学習できる
- ・個々人の**学習履歴**を記録できる

➡一人一人の（11 **教育的ニーズ**）や、（12 **学習状況**）に応じた個別学習が可能になる

【協働学習】

・一人一人の考えをお互いにリアルタイムで（13 **共有**）できる

- ・子供同士で双方向の意見交換が可能になる

➡各自の考えを即時に（13 **共有**）し、**多様な意見にも即時に触れられる**

教員養成セミナー9月号
トレーニング動画

12カ月完成
教職・一般教養
受講ノート

◆第12回◆教育時事②

教育の情報化・GIGAスクール構想

講師：本田 辰雄